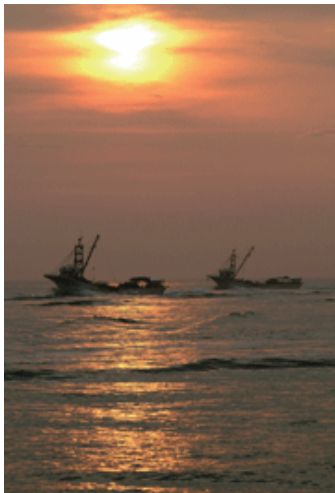


● 水産物

■ 水揚げ量



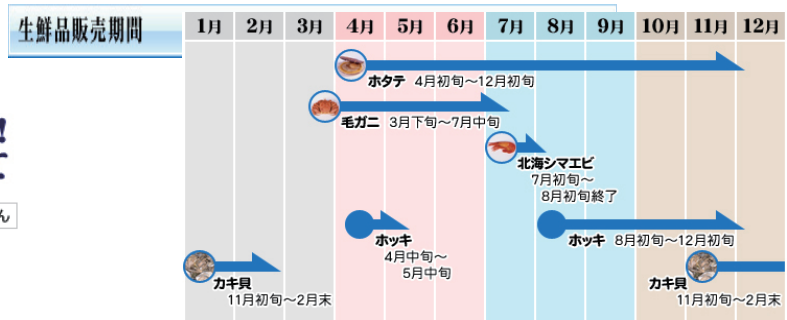
【常呂漁業協同組合ホームページより】

平成24年度(2012)北見市統計書データでは、漁業生産高は42,423トン、生産額は90億8339万円です。

ホタテ貝の水揚げ量は35,238トンで約76%、取扱額は60億円と正に「ほたて王国」で、漁業協同組合のキャラクターはホタテ貝がモチーフになっています。

ホタテ貝の他には鮭・鱒が約5,800トン、ほっけ、するめ、イカ、みずたこなどが水揚げされています。

夏の名物、ほっかいしまえびは31トン、冬の名物かき類75トンが平成24年に水揚げされています。



■ 育てる漁業



稚貝放流



「捕る漁業」から「育てる漁業」へ。常呂は、昭和9年ホタテち貝採苗試験(木下式垂下方)の実施、昭和11年カキ採苗養殖事業の実施、昭和13年常呂川鮭鱒ふ化場(北見市中ノ島)設置と、戦前から育てる漁業に取り組んできています。

常呂のホタテ養殖を支えているのが、“畑の輪作”を思わせる「四輪採制」と呼ばれている漁場区画割の導入です。

これは、常呂沿岸のオホーツク海を4つの海区に分け、サロマ湖で育成したホタテの稚貝を1年ごとに海区をずらしながら放流し、4年前に放流した海区から水揚げをしています。

この四輪採制により、若い稚貝を守り、資源の管理と安定した水揚げ量につながっています。